

開催レポート

Spin-L(スピン生命フロンティア)は、生理学研究所を核とした、ネットワーク型の共同利用・共同研究プラットフォームであり、分子科学研究所、生命創成探究センターとともにコア機関を構成し、ノード機関(京都大学 化学研究所、大阪大学 蛋白質研究所、新潟大学 脳研究所、量子科学技術研究開発機構 量子生命科学研究所)と連携することで、生理学、分子科学、生命科学など、多岐にわたる分野を融合した研究を進めている。今回の分野融合型Spin-Lトレーニングコースは、コア機関が保有する最先端の研究設備・機器の見学を目的とし、全国の研究機関や企業から集まった、様々なバックグラウンドを持つ12名の研究者・技術者を対象に開催した。生理学研究所の福永雅喜特任教授は、脳機能計測・支援センターの7T-MRIおよび3T-MRIを用いた研究事例を紹介し、スピン生命科学分野の今後の展望を解説した。分子科学研究所の中村敏和チームリーダーは、様々な電子共鳴装置(ESR)を活用した研究内容について解説した。生命創成探究センターの山口拓実特任准教授と谷中冴子准教授は、NMR装置、超分子質量分析装置、探針走査型高速原子間力顕微鏡/蛍光顕微鏡複合装置等を用いた最先端の研究について紹介した。参加者からは、「専門的な内容も分かりやすく説明されており、分野外の知識も得られた」といった好評の声が寄せられた。

